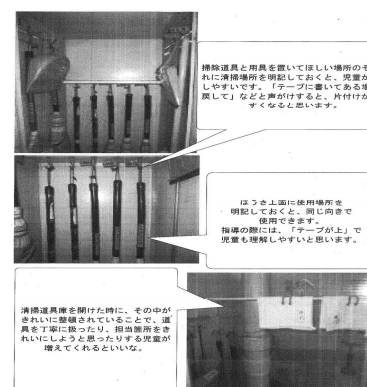


明和町立明和西小学校



道徳や学級活動の授業改善に役立っ情報をもつて、これをめな流れしたり、各教室を回って掲示物の
の工夫や向上を図る。このように、児童の自主活動を進め、自己肯定感・所属感を高め、



コロナ禍におけるイレギュラーな対応が求められる中、安全な学校運営をしていく上で、管理職や生徒指導主任、安全教育主任、給食主任、清掃主任などと連携し、校内の感染防止対策を提案してきた。また、全職員で共通理解をして感染防止対策や新しい西小の学校生活様式を実践してきた。

[illegible]

○ 学校評価の結果において、授業が分かり、楽しいと答えた児童が低学年で95%、中・高学年で90%、授業改善ができていると答えた教職員が82%と成果が示された。CTの活動が、児童の学習面の向上と教職員の指導力向上の両面に寄与した。

○ メンター研修において、若手教職員と経験豊富な教職員を3つの小集団に分けて情報交換の場を設け、若手教職員が周囲の教職員と、より関わりやすい雰囲気をつくることに取り組んだ。各研修内容にあたる主任がメンター（講師）となることで、メンターの教員力向上だけでなく、メンターとしての職能成長を図ることができた。

○ 研修主題「自らの考えをも、多様な考え方を生かして、主体的に学ぶことのできる児童」という視点から授業を参観し、全職員に向けて教師が意識すると良いポイントを紹介したことで、職員の意識改革を図ることができた。

○ 給食指導や清掃指導、教室の環境整備など、学級経営の取組を具体的に提示したことで、学校全体で統一が図られ、規律ある生活習慣を身に付けさせることができた。

● 本校の特配教員の組織構想図「四つ葉のぼくら」（校内研修・学力向上・生徒指導・CT）をイメージし、組織の中核として、情報交換しながら、組織的に活動してきた。職務内容の精選・明確化において、各主任と連携を図り、更に密に計画を立てる必要がある。

● 学校の全体で統一され、児童の学習面を今後とも継続していくために、話し合いのテーマの必要感を持たせ、児童同士への抵抗感と参観をする側の遠慮などがみられる日頃から、教職員同士の情報共有を活性化させ、より授業を見せ合える組織作りが必要である。